

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	37人
② 算数	37人
③ 理科	37人

5 留意事項

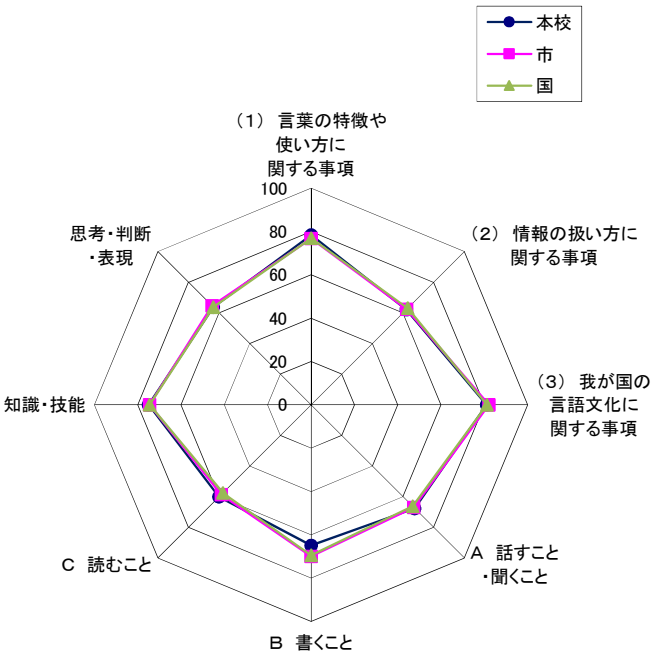
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	62.2	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.1	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	67.6	67.0	66.3
	B 書くこと	64.9	70.0	69.5
	C 読むこと	60.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	75.0	74.5	74.5
	思考・判断・表現	63.8	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

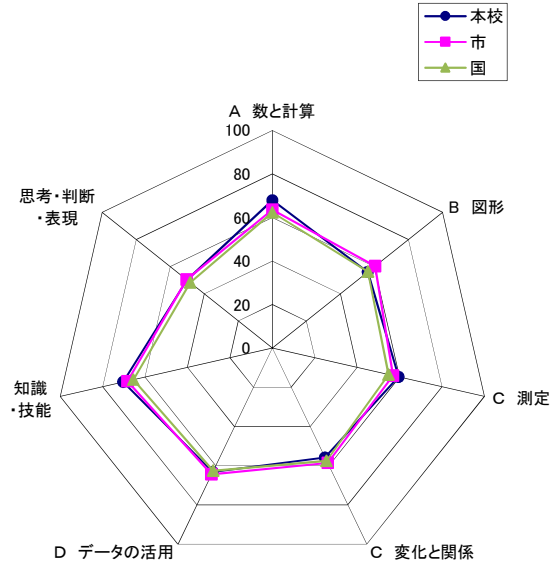
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は78.4%で国の平均より1.5ポイント高い。 ○「このみ」を漢字に書き直す問題では、正答率が86.5%で国の平均より4.9ポイント高い。 ●「あつひ」を漢字に書き直す問題では、正答率が70.3%で国の平均より1.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・正しい漢字を習得できるようにするために、小テストやAIDリルを活用する。 ・言葉の意味を正確に理解し、それを文脈に応じて使い分ける力をつけるために、短文作りや意味調べの時間を設定する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は62.2%で国の平均とほぼ同じである。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が62.2%で国や市の平均とほぼ同じである。	・与えられた情報をただ読むだけでなく、自分で情報を整理し、その間の関係性を深く読み解く力をさらに育てるために、本や新聞、雑誌、インターネットなど様々なメディアから情報を得て、必要な情報を見つけたり正しく読み取ったりする学習を積んでいく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は81.1%で国の平均とほぼ同じである。 ○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、正答率が81.1%で、国の平均とほぼ同じである。	・さらに言葉の知識や、変化に気づく力を高めるために、日常でよく耳にする言葉の変化について考え、言葉の変化が、なぜ起こったのか、その理由を深く掘り下げていく授業を展開する。 ・言葉のもつ面白さや言葉を学ぶ楽しさを感じさせるために、言葉の仕組みや歴史、言葉が持つ奥深さに目を向けさせて、興味をもたせるように支援する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率が67.6%で国の平均より1.3ポイント高い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では、正答率が62.2%で国の平均より8.9ポイント高い。 ●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、正答率が67.6%で国の平均より6.1ポイント低い。	・朝の会のスピーチや国語の話す学習の充実を図る。 ・まず、話し手の考えを正確に読み取る力をつけるために、物語文や説明文を使って、登場人物や筆者の気持ちを読み取ることを積み重ねていく。 ・各教科で友達との話し合いを多く取り入れる。
B 書くこと	平均正答率が64.9%で国の平均より4.6ポイント低い。 ●書く内容の中心を明確にし、内容をまとまりで段落をつくらせたり、文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題では、正答率が48.6%で国の平均より16.9ポイント低い。	・朝の学習や家庭学習等でテーマ作文等に取り組ませ、「何を書くか」「どういう順番で書くか」など構成を考え、表現することを習慣化させる。 ・段落の役割を意識させるために、段落分けクイズや段落シャッフルなど段落の学習の充実化を図る。
C 読むこと	平均正答率が60.1%で国の平均より2.6ポイント高い。 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、正答率が48.6%で国の平均より7.8ポイント高い。	・各教科で複数の情報源を比較・統合する学習を積み重ねたり、目的・課題に応じた情報選択を促す指導を行う。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.9	63.6	62.3
	B 図形	56.1	60.4	56.2
	C 測定	59.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	55.9	58.6	57.5
	D データの活用	63.2	64.4	62.6
観点	知識・技能	70.3	68.3	65.5
	思考・判断・表現	50.2	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

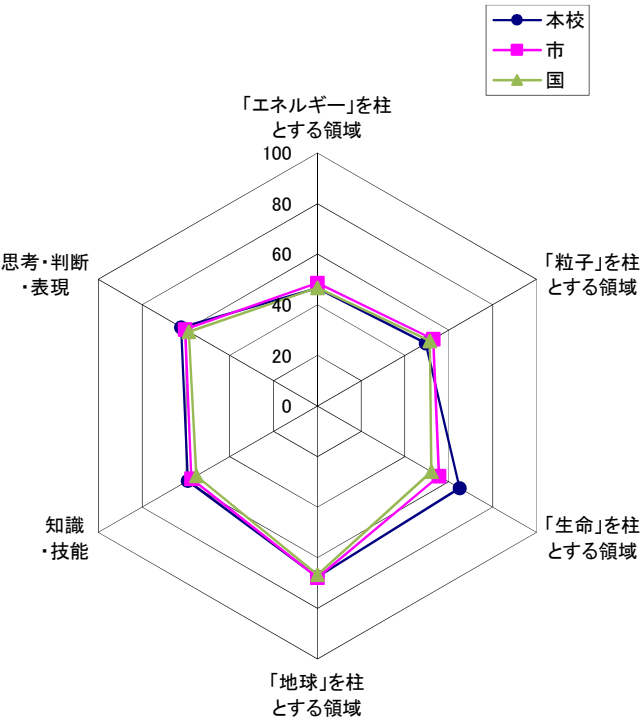
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、67.9%で、国の平均より5.6ポイント高い。 ○数直線上で、一目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ文として捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が51.4%で国の平均より16.4ポイント高い。 ○異分母の分数の加法の計算では、正答率が94.6%で国の平均より13.3ポイント高い。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では、正答率が75.7%で国の平均より3ポイント低い。	・文章問題の意味を理解しやすくしたり、数量の関係を捉えやすくするために、図や数直線に表す活動を引き続き行っていく。 ・基本的なグラフの読み取りについて理解を深めるために、棒グラフの一目盛りはいくつになるのかや棒グラフが表す数などについて考え、説明したり話し合ったりする時間を十分に確保する。
B 図形	平均正答率は、56.1%で国の平均とほぼ同じである。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が56.8%で国の平均より6.6ポイント高い。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題では、正答率が48.6%で国の平均より9.7ポイント低い。	・図形の意味や性質などの基礎基本の力を定着させるために、課題解決の過程でその都度、確認していく。 ・図形の性質を使って、作図するための方法や手順について考え、言葉で説明する学習を丁寧に行うようにする。
C 測定	平均正答率は、59.5%で国の平均より4.7ポイント高い。 ○はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題では、正答率が67.6%で国の平均より6.7ポイント高い。	・読み取る力を高めるために、多くの文章問題に触れたり、その都度、意味を考え、説明する時間を設ける。 ・「なぜ測るのか」という目的意識を持たせることで、学習へのモチベーションをさらに高めるために、家庭科や理科の授業と連携させたり、日常の場面で測定を活用させたりする活動を行う。
C 変化と関係	平均正答率は、55.9%で国の平均より1.6ポイント低い。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問では、国の平均より2.7ポイント高い。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかをみる問題では、国の平均より4.4ポイント低い。	・文章問題の理解を深めるために、分かっていることを整理したり、図で表現したりするなど、段階的に指導していくようにする。 ・「どうしてその答えになったのか」を言葉で表現する練習を日頃から取り入れる。 ・授業では、「どうしてそう考えたの？」と必ず理由を尋ねるようにし、自分の考えを言葉にする習慣をつける。また、自分の考えを言葉で説明するだけでなく、自分の考えを広げるために、友達の考えを聞く時間も十分に確保する授業を展開する。
D データの活用	平均正答率は、63.2%で国の平均とほぼ同じである。 ○目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が35.1%で国の平均より4.1ポイント高い。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題では、正答率が75.7%で国の平均より4.1ポイント高い。	・さらに、読み取った情報を使いこなす力や自分の考えを言葉で論理的に説明する力をもっと伸ばしていくために、グラフや表から情報を読み取るだけでなく、その情報が「何を表しているのか」を言葉で説明する授業を展開する。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.5	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	64.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	67.6	67.9	66.7
観点	知識・技能	59.1	57.5	55.3
	思考・判断・表現	62.2	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率が46.6%で国の平均とほぼ同じである。 ○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が89.2%で国の平均より11.2ポイント高い。 ●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石にひきつけられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が2.7%で国の平均より7.9ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・プリントやAIドリルなどを活用して、今までに学んだことを復習する時間を確保する。また、理科の学習について家庭での自主的な学習を促す。 ・知識の導入方法を見直し、児童が自ら発見できるような実験や体験を増やす。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が49.5%で国の平均より1.9ポイント低い。 ○水か氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が67.6%で国の平均より7.8ポイント高い。 ●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が40.5%で国の平均より1.9ポイント低い。	・実験や観察を行う際には、「問題」「予想」「実験(観察)方法の検討」「結果」「考察」の流れを基に、児童が自分の考えをもちながら主体的に実験や観察が行えるように引き続き、指導を行う。 ・表現力を高めるために、考察を文章でまとめるだけでなく、口頭で発表させたり、模造紙にまとめて掲示したり、スクールタクトでまとめたりするなど、様々な方法で表現することを積み重ねていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率が64.9%で国の平均より12.9ポイント高い。 ○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が67.6%で国の平均より22.0ポイント高い。 ○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が78.4%で国の平均より16.4ポイント高い。	・実験や観察を行う際には、道具の操作について見本や動画を見せながら丁寧に説明したり、実際に道具を使って経験を積み重ねたりする。 ・引き続き、実験計画の立案: 問いを解決するために、どのような実験をすればよいかを計画させる。その際、実験条件を明確に制御できるように指導する。 ・身の回りの生き物に関心をもてるよう、生物を探したり、育てたりする経験を多く取り入れ、それらの様子や周囲の環境、成長の家庭や体のつくりに着目させる指導をする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率が67.6%で国の平均とほぼ同じである。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて「結果」や「問題に対するまとめ」を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題では、平均正答率が83.8%で国の平均より6ポイント高い。	・天気や自然界の水や土の様子など、日常の様子に関心をもてるように、日頃から理科の学習と日常生活を結び付けた問題を提示するなど、学習活動を工夫する。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べている。」と肯定的回答した児童の割合が100%で、全国平均よりも6.3ポイント高い。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている。」の肯定的回答をした児童のは84.7%で全国平均よりも2.8ポイント高い。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きている。」の割合は90.2%で、全国平均とほぼ同じであった。家庭での生活習慣が身に付いている様子が見られた。今後も、規則正しい生活習慣を意識して継続できるように指導にあたる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と肯定的回答をした児童の割合は100%であった。今後も、学校や学級での生活の中で、いじめは決して許されることではないことを指導していくとともに、道徳や学級活動を通して、いじめのない安全で楽しい学校生活を送れるよう、支援していく。
- 「自分には、よいところがあると思う。」と肯定的回答をした児童の割合は、94.5%であった。また、「先生は良いところを認めてくれている。」と肯定的回答をした児童の割合は、97.3%であった。自己肯定感が高い児童が多いことがうかがえる。今後も学校生活の中で、児童のよさを認め、伸ばしていく指導を心掛けたい。
- 国語について「大切」「内容がよく分かる。」「将来役に立つ。」と肯定的回答をした児童の割合がどちらも全国より高く、国語の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。今後も、児童が「分かる」授業、生活の中で活かすことができる授業づくりを行っていく。
- 算数について、「得意」「内容がよく分かる。」「将来役に立つ。」と肯定的回答をした児童の割合は、いずれも全国平均を上回っている。また、「算数の勉強は好き。」の肯定的回答も全国平均を上回っている。今後も、児童が算数の魅力や楽しさを感じられるような授業づくりを心がけていきたい。
- 「読書は好き。」の肯定的回答が26%で全国平均より46.1ポイントも下回っている。読書の楽しさを味わう活動を増やし、文章に触れる機会を多くとっていけるようにしたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的な学習活動の充実 ・言語活動の充実と質的向上	・学習形態や授業展開の工夫 ・朝の学習における「ことばの時間」の設定 ・学習の振り返りの工夫 ・ICTの効果的な活用	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」という質問に対する肯定的回答割合が94.6%で、県や全国と比べて10%近く高い。 ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は70.3%で、県や全国より10%近く上回っており、無回答率も0%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎・基本の定着(学習用語の理解) ・文章の組み立てや文の構成についての理解 ・国語の調査で、問題を解く時間が十分ではなかったと回答した児童の割合が1割強 (「読むこと」「書くこと」に関する力)	・朝の学習の取組の工夫 ・授業展開の工夫 ・読書指導の充実 ・家庭との連携	・朝の学習の時間に視写を取り入れる。 ・つまづきを取り上げ、よりよい考え方を探究する対話的な学びを取り入れた授業を展開していく。 ・読書を通して、良い文章に触れる機会を増やす。 ・日記や作文などを家庭学習に取り入れる。